

分野：⑪資源（エネルギー）

総合学習環境講座「食べ物からエネルギーを考える」

環境アドバイザー

谷合 宜明

対象 新座市立野寺小学校5年3クラス（99人）

所要時間



45分（計 135分）

場所 5年生教室

実施時期

令和2年11月6日

概要

モノづくりにはエネルギーが欠かせず必要になる。
そのエネルギーは化石燃料から取り出している以上、CO₂の排出が避けられない。

プログラムの
ねらい

生活に使われているモノの一生（はじめから終わりまで）は、どれもエネルギーを使って作られている。よって、モノを作ることはCO₂を排出することになる。
今回は、給食を作るためにはエネルギーを使いCO₂を出すことを学ぶ。

プログラムの内容

1. 事例（鉛筆の一生）説明（10分）
「鉛筆は、輸入による黒檀・粘土・木材などからつくられる。多くの工程でエネルギーを使っているためCO₂を排出している」ことを説明。
2. 本日の給食から、牛乳・米のどちらかを選んで、初めから給食に提供されるまでをコピー用紙に書いて貰い、エネルギーを使っている部分にマークしてもらう。（15分）
3. 各人に強調したい部分の説明をしてもらった。（20分）

受講者の反応

給食を食べるときに、CO₂を出していることを思い出します。

環境学習の様子（写真） ※表面に写真を掲載している場合は不要

